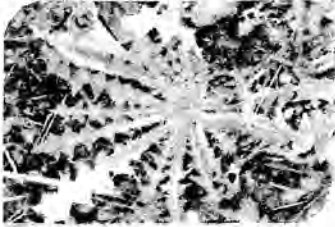




奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞



奈良の万葉歌碑めぐり ①

有本 倍美

奈良には万葉歌碑が多い。ざっと 250 基ぐらいあって古代の歴史文化に好奇心を持つ方には貴重なよ
り所であります。わたしが特に面白いと感じたものをご紹介します。

「わが里に大雪降り大原の古りにし里に降らまくはのち」 天武天皇 2-103

「わが岡の於可美に言ひて降らしめし雪の砕けしそこに散りけむ」 藤原夫人 2-104

いわばクーデターである壬申の乱に成功した大海人皇子(天武天皇)は強大な権力をもとに天皇中心の専
制支配体制を敷き現人神として神格化した。戦前に生まれた人ならばこの状況は理解できる。つぎに日
本書紀によれば天武天皇は皇后はじめとする 10 人の妻との間に皇子 10 人、皇女 7 人を擁した。皇后
は兄、中大兄皇子(天智天皇)の娘でのちの持統天皇で、3 人の妃はいずれも兄、天智天皇の娘である。
3 人の夫人のうち 2 人は藤原鎌足の娘であり、藤原夫人はそのうちの 1 人。ついでながら万葉歌人とし
て有名な額田王はその他 3 人の愛人の 1 人で、その間に出来た十市皇女は壬申の乱で自刃した大友
皇子(弘文天皇)の妃となっている。そして皇子 10 人は結局 1 人の天皇も即位しなかった。

以上歴史上の特徴は クーデターにありがちな絶対君主制の確立とそのための入り組んだ近親血縁関係
と皇位継承問題(誣告や謀反)による極度の緊張である。

天武天皇「わたしの里に今大雪が降った。そなたの古ぼけた里に降るのは後程でしょう」藤原夫人「何
をおっしゃる。それはわが丘の於可美(竜神)に言って降らせたものです。その雪の欠片がそこに飛び散っ
たのですよ。お解り？」と返した。

二人の居住関係を検証すると、天武天皇は即位の地の飛鳥浄御原宮(伝板蓋宮跡)が定説。藤原夫人
の居所は大原の地。詳しくは甘樫丘の北展望台から東を眺めると明日香銀座が一直線に見える。突き当
りの飛鳥の神名備山といわれる鳥形山はおんだ祭りで有名な飛鳥坐神社である。その東 300 米あたりの
台地が藤原氏の本拠地大原で、鎌足の出生地と伝えられる大原神社の境内にこの歌碑があり、鎌足誕生
の際産湯に使ったという井戸が八釣川に沿って残っている。このあたりは現在開発されて奈良県立万葉
文化館となっているが飛鳥池遺蹟の上にあり、富本銭の鑄造工房や亀形石遺蹟が発掘されている。それ
はさておき、両者の居所はせいぜい 1km 未満。雪が同時に降る距離にありながら「降らまくはのち」
と天皇も夫人も当時の背景を感じさせない大らかで微笑ましいやり取りである。

時間：棚倉駅前10時15分集合～木津駅前15時20分散散

行程：棚倉駅―涌出宮―椿井大塚山古墳―上狛環濠集落―泉橋寺―不成柿・安福寺-木津駅

参加者：24名 古川(ゆ)、鈴木(す)、吉村、豊田、岩田、阿部、林、竹本、川岸、弓場、川井、
八尋、豊島、岸谷(よ)、岸谷(ゆ)、平塚、福谷、井戸、塩本、古川(ひ)、谷川、木村、守口、大石

霜の降りた寒い朝にもかかわらず集合した会員は初冬の青空の下
山背古道散策を楽しんだ。古木生い茂る神社の森、カラスウリが
ぶら下がる冬枯れの田園地帯、京都の西山から二上山まで続く山
なみ、古い民家や茶問屋の建ち並ぶ通り、どれもみんなで歩くと
一段と美しい。ここは縄文弥生の時代から古墳時代、奈良、平安
室町時代、現代まで人々が懸命に生き、苦楽を過ごした所だ。古
墳のてっぺんでお弁当を食べ、歌を歌ったことも珍しくも楽しい。
にわかに歴史愛好家になった私の、つたない解説を熱心に聞いて
下さった皆さん、お疲れ様、そしてありがとうございました。



忘年会：30名(男22名、女8名)の参加、17～19時、坐和民三条通り店にて。12名の新入
会員を中心に会への参加の動機や入会後の感想、今後の抱負などいろいろの話で盛り上
がり、あっという間の2時間が過ぎた。各自過ぎ去った苦労と自分の年齢をも忘れ去り、こ
れからの会の発展を願って散会した。
(守口京子 記)

ならやま里山林自然観察レポート

ならやまの鳥たち・一月

小田 久美子

1/12(月) 予報は雨でしたが嬉しい外れになり参加者8人で観察、まず定点でジョウビタ
キ(♂)、今年の冬は彼が野守です。メジロ・ヒヨドリ・ツグミたちの群れが入れ替わり立ち
代り柿レストランに來ました。冬鳥に期待していましたが、曇り空と風が邪魔したためか
合計8種、山中の90分は数も少なくパトロールに歩いただけの感が残り残念でした。法隆
寺の裏山・山の辺の道など、同じような景観の所があり鳥が多いのですが、里山の背後に
大きな山を控えています。ここは道路など人工的なもので回りの山と遮断されているので
はないか、今後の調査の結果を期待します。川瀬支部長は全国一斉カモ調査の日で、十津
川で泊まりの調査のためお休みで、今年は1386羽とのことでした。因みに去年は1696羽
でした。十津川はオシドリ越冬地の全国一を誇ります。

ならやまプロジェクト・レポート 21年1月

1月8日(木) 晴 ならやまの初出 参加者 23名

阿部会長からの初出のご挨拶の中に、北海道で我々と全く同じ手法で、市街地のなかにある里山の回復を手掛けて成功しているグループの紹介があり、大いに意を強くしました。次いで、会員の安全と健康、プロジェクトの発展を祈念して、川井顧問のご発声で乾杯、皆さんの元気な声が周りにこだまして、初日から上々のムードとなりました。

新年の 事始めは「周辺のクリーン・アップ」です。b地区田圃跡地に繁茂していた笹藪は、中畑さん、鳥井さんたちの努力お蔭で、刈り払いが完了し、山際までの広々とした原っぱが出現しました。刈跡には例によって大量の放棄ゴミが出現し、初仕事はこれの収集となりました。この場所は、引続き整備を進めて、将来はいろんなイベントに使える多目的広場として活用することを計画しています。

次は『ならやまの自然』からの贈り物のニュースです。畑の隅に積み上げた落葉の堆肥の中に、カブトムシの幼虫がいっぱい見つかりました。この場所を保護するため、早速、囲いを造りました。うまくいけば、この夏にはカブトの成虫がぞろぞろ出てくるのが観察されるかもしれません。

鈴木末一さんが、ならやまのウエルカム・ボード(写真中央)を作ってくれました。イベント等に、ウエルカム・ボーイと一緒に飾りたいと思います。有難うございました。お昼はブタ汁で体を温めて、午後は椎茸のホダ木造りに従事しました。 2時解散

1月12日(月) 小雨 ならやま山の日、野鳥観察の日 9名参加

小雨模様のため、山作業は中止。野鳥観察には北風が強く最悪の条件でしたが、所定のコースを回り定点観察を行ないました。 12時解散



「ならやま」の初出に集まる仲間の皆さん

(古川 祐司 記)

**** 昆 虫 食 ****

最近刊行された「楽しい昆虫料理」という本を読みました。著者は内山昭一という昆虫料理研究家で、セミ、コオロギ、バッタ、カマキリ、スズメバチ、カブトムシなど、いろいろな昆虫を食材にしたレシピが紹介されています。一般的には大変なゲテモノです。

その本の中に、息抜きの昆虫愛好家として有名な奥本大三郎氏（埼玉大学教授、フランス文学者）と著者との対談記事が挿入されていますが、その一部分がたいへん面白かったので、そのくだりをそのままご紹介します。

内山 ムシというと、非常に嫌悪感を示す人が多いんですけど。そういった方に昆虫食を啓蒙することは可能でしょうか。

奥本 もう、それはやはりハンバーグみたいに不定形にしないとダメでしょうね。

内山 よっぽどの食糧難に襲われないかぎり、まあ、口にはしないでしょうね。昆虫食を一番阻んでいる原因はかたちだと思うんですが。

奥本 そもそも無知なことが多い。でも飢えれば食べますよ、絶対に。それもハンバーグだったら、絶対に飛びつくと思う。で、そういうノウハウが一番持ってるのが日本の食品会社だと思うんですよ。ああいうところの高い技術を使って誰でも食べられようなものにするのを是非やらなければいけないと思いますね。例えばアフリカで大量発生するサバクトビバッタなんかでハンバーグができるといいですよ。

それから、今は世界中で金持ちだけが牛肉を食べているわけですよ。その次が豚、ニワトリ……。牛の場合は食べられるようになるまで時間もお金もかかる。一方で、スキヤワラを食べて2週間で成長するような生き物は、もうバッタしかない。もし世界中のみんなが動物性タンパク質をたっぷり食べたいというんだったら、もう昆虫に頼るしかない。資本があつたら、僕が会社を起こしたいくらいですよ（笑い）。

「楽しい昆虫料理」著者：内山昭一氏、（発行所：懶ビジネス社）から引用。

*もし、この本を読みたいという方が
いらっしゃいましたらご連絡ください*

菊 川 年 明



まほろばの小さな旅



川井 秀夫

01' 年 秋。飛火野「雪消の沢」で発会の拳を挙げてから7年。会員諸氏の研修自然観察会として、就中、植物・野鳥・昆虫・社寺・遺構・遺跡、古街道・景観・歴史・登山など、奈良のまほろば(優れた立派な場所の意)の地を訪れ、歩く・観る・聞く・感じる・と幾たび研鑽の日々を送った事でしょうか。

一期一会と言いますが、価値観の異なる方々と共有できるコミュニティの場として、当会の活動行事の中心軸であり、会の存続がある限り、色褪せる事は無いと思っております。

この行事に限った事では有りませんが、自然を慈しむ方々の人間力は素晴らしいと感じ得る事がしばしばです。この観察会においても集団の中に、それぞれのジャンルに精通されたエキスパートが居られ、物言わぬ万物に代わりレクチャーの語りが楽しみを倍加させてくれます。言語能力のある人間の素晴らしさでしょう。

この行事を通じて200人位の方々と交流させて頂いた様に思います。紙幅に限りがあり全てをご紹介出来ないのが残念ですが、県外から参加された方々の中では 山田 洋子さん 豊田 正生 氏、志水 明子さん、川岸 美子さん、八尋 ハルさん、おしどり夫婦で長い間参加された市村 夫妻、野田 陽子さん、柳田弥知子さん、門田 勝代さん、最近では植物学の大家 高橋 弘志氏が大きな力になって頂いてをり、これからもよろしくお願いしたいものです。

私には感動の場面が幾つかあります。

06' 11月。曾爾高原一泊研修会。初日の行程を了えた夕刻、西の室生の山々に沈む夕日に、暫し息を呑み、大宇宙の悠久の営みに、その場を立ち去る事を忘れる程でした。生涯の中でも記憶に残る景観だったと思っております。

登山では05' 6月 洞川温泉からシャクナゲの稲村ヶ岳を登り、ガレ場から尾根歩きを足取り軽く爽快感を堪能した事が思い出されます。08' 5月には台高山脈の北に位置する明神平に登高しましたが、アプローチでふくら脛が痛み出し、頂上到着が一時間遅れる始末。ヒメシャラの群落を観るのもそこそこに下山したものでした。足の衰えを感じた一瞬でした。

秋色のみたらい溪谷も印象に残ります。「みたらい」とは御手洗・御鹽と書き、昔 高家の人々が深山の入り口で禊をした伝説から呼ばれています。ここでは紅葉の匂とあってモミジの勉強をさせて頂き、十種に及ぶ葉形が今でも鮮明に思い出されます。

07' 11月。熊野古道 小辺路。霊気溢れる祈りの路。月の出の仙人風呂で癒しのひととき。

04' 8月十津川村 昂の郷。玉置神社から熊野本宮へ、更に瀨峡の舟下り。

最近では08' 11月。吉野川源流を探訪。セパレートされた人工林と自然林の対照の妙。生態系の神秘。雄大な明神滝から落下したと言われるトガサワラの巨木。幽谷の大自然に時を忘れさせる感動のひとときでした。

私の記憶の中から、ごく一部を思いつくままにご紹介しました。人と人、人と自然、この連環を謙虚な心で大切にしたいと思っております。あの曾爾高原の大夕日の残像が、私の人生観を反芻する反面教師になったと言える言い過ぎでしょうか。

次回はいこま棚田の活動から

強く大きく逞しく「オオワシ」

小田 久美子

日本最大の鷲で翼を広げると2、5m。
 畳で1枚半位と考えると分り易いでしょう。日本では冬鳥で、北海道冬の風物としてオジロワシと共に氷の上の雄姿がニュースになる鳥です。眼光鋭く、嘴と脚は大きくて鮮やかな黄色で、肩の白と共に遠くからでも良く分る鳥です。主に魚を採りますが時にはカモなども食べるようです。私たちの近辺ではなかなか出会えない鳥ですが、湖北に行けば大概見られる冬常連の大スターです。 今月の湖北探鳥会では、ナカハチの皆さんのおいでをいつもの定位置でお待ちしているはずです。



く癒しの散歩道

春よ来い

谷川 萬太郎

冬ごもりの春風よまだ覚めやらぬ深い眠りの狭間でどんな夢を育てているのだろう
 凍てつく寒風が頬を優しく撫で真綿のような柔らかい日差しが暖かな手をさしのべる
 愛しい人に巡り逢うために年を越えて来た山茶花の花びらがつらそうに足下に纏わりついて
 白髪頭も美しい川の辺の霜模様澄んだ川面の流れも冬の宛を身に纏い時を忘れ静かにまどろむ
 鳥達も声を潜めて雛を育て遠くに雪空を恨めしく仰いでは待ちわびる春の訪れを夢見る明日
 固く閉ざした冬の扉を開け新しい今年の歌を口ずさむ日がもうすぐそこに寄り添う様に忍び寄る
 骨を休めた時計の振り子のように斑模様の振袖を着た白い山々のいでたちのいじらしい艶姿が眩しくて
 振り向けば話しかける人もなく吹く北風に縋りつく哀れな枯葉をもぎ取られた丸裸の草木が切なくて
 今日も孤独な夜を迎えるなんてその哀れみの中で逆らう事さえ出来ぬ自然のもどかしさとうらめしさよ
 冷たい土の奥深く微かな安堵と寝息をたてる動物たちの姿こそきっと春の夢を運んで来るに違いない

自然俳句欄

やましろ

山背の謎ときのみち小春かな 秀 夫

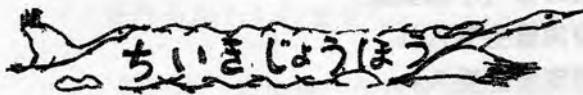
12月例会。好天。卑弥呼伝説の大塚山古墳。南都焼き打ちの
首謀 平 重衡、処刑に因む「不成の柿ノ木」。伝説はロマンと
謎を生む。木津川の流れ淀みなく、一年を運び去る。

ながとき

ぎょけい

竹盃に寿かけ御慶かな 秀 夫

1月8日。里山林 始動。里の神にお神酒献上。
乾杯の声、林内に凜として一年の平安を祈る。



(斑鳩より) 1月1日新しい年の歩き初めです。

(野山の鳥) シメ2・イカル声・ジョービタキ
シジューカラ・シロハラ1・モズ3・アオジ
ホオジロ・カワラヒワ・ツグミ90
チョーゲンボウ・ウグイス声・イソヒヨドリ♀
スズメ・ムクドリ・ヒヨドリ・ドバト・キジバト
ハシブトガラス・ハシボソガラス
水辺の鳥) オオバン4・バン・カワセミ2
カイツブリ・マガモ・コガモ・ヒドリガモ
オカヨシガモ・カルガモ・イソシギ・ハクセキレイ
セグロセキレイ・キセキレイ・アオサギ・コサギ
カワウ36種見ました。我が家の観察史上2番目の
記録です。1番多かったのは38種です。(勝田)



ツグミの群れ今年は特に多い(竜田公園)

お知らせ

ラミネート機の購入 (LAM-500S)

これまで、「奈良NPOセンター」の器具をお借りしてきましたが、今回「A3用紙」まで
対応できる器具「ラミネータ4」を購入 阿部会長宅に保管しています。会員の皆様で必要
な時は、ご活用ください。B6～A3まで対応できます。



＊原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止＊

『ならやま里山林プロジェクト2・3月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所 奈良市奈良坂町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩10分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—
（案内図が入用の方は、問合せ先までご連絡下さい）

日時

2月 6日（金）	ならやま山の日（里山整備）
2月 9日（月）	ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
2月12日（木）	一般活動日・教育実習生受入れ
2月28日（土）	一般活動日・教育実習生受入れ
3月 7日（土）	公開イベント「里山へ行こう」（椎茸菌打ち 他）
3月 9日（月）	ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
3月20日（金）	一般活動日
3月31日（火）	ならやま山の日（里山整備）

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行
②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:30発 JR奈良行
①②とも佐保台西口、または平城大橋下車 徒歩約7分

携行品 弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地に用意しています）防寒対策
＊環境保護のため、コップ・お箸・お碗は各自でご用意ください。

活動内容

・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成
畑作業は、除草、有機栽培のための堆肥作り、土作り

＊自由活動日について

1月～3月の間、火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。活動される方は、担当幹事までご連絡下さい。

（問合せ先： 担当幹事 古川 小嶺）

ならやまの野鳥観察

皆さんのご参加をお待ちしています！

～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

☆日程： 2月9日（月）＜毎月第2月曜日＞

★集合時間・場所： 8時50分 ならやま駐車場 ＊9時出発 11時ごろ解散

☆観察場所： 里山林散策路内の定点及び定線観察

★持ち物： 双眼鏡・飲み物・歩きやすい服装・マイコップ（弁当・雨具は適宜）

☆小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせして下さい。中止の時は次週に順延。

★担当者： 小田 菊川

【奈良忍辱山森林整備作業】

場 所： 奈良市忍辱町 国有林 駐車場より徒歩 10 分東海自然歩道沿いの二次林。

集合場所： 国道 369 号線—忍辱山町自治会共有地（池の傍）駐車場
（奈良交通バス停 忍辱山円成寺口下車 少し戻る南側）

日 時： 2 月 17 日（火）、予備日 24 日。 3 月 17 日（火）、予備日 24 日（火）
（集合時間 10：15 より、終了予定 Pm3：00 ころ）

交 通： 奈良交通バス 近鉄奈良駅前バス乗り場④番 9：40 柳生・月ヶ瀬温泉行き
（持ち物） 作業のできる服装、昼食、飲み物、手袋、コップ。用具は、準備しています。

—ご参加お待ちしております！—

（連絡先）弓場厚次

明石嘉一郎

、板橋宏昌

活動報告 1 月 16 日（金）晴れ 寒し

参加者 明石嘉一郎、板橋宏昌、小森清道、竹本雅昭、中畑 進、守口京子、弓場厚次、阿部和生 8 名
昨年 12 月は、予定日も予備日も雨で悔しい思いをしました。新年第一回は、よく晴れた日でしたが
寒波の中の作業、昼食時の暖かい「ふかひれスープ」が力をつけてくれます。道端やそこ
ちにある雪は、帰る時刻でもそのまま融けず、標高差がしっかりと寒気を持っていました。
久しぶりの作業は、やはり気持ちよく そんな中でもはかどりました。3：15 解散。

2 月例会＜バスツアー＞「琵琶湖周辺探鳥地及びザゼンソウ自生地」

～ガン・カモ・ハクチョウとザゼンソウを観に琵琶湖を一周します～

日 時： 2 月 25 日（水）午前 8 時 50 分集合 *午前 9 時出発・午後 6 時
帰還予定

集合場所：近鉄奈良駅北側・商工会議所前

費 用： 3500 円（当日集金）

持 ち 物： 双眼鏡 弁当・飲み物（食堂有、持参自由） 雨具適宜

寒さ対策は万全にお願いします

申込み方法・締切日： 勝田宛に e メールまたはファックスにて 名前と電話番号を添え
申し込み下さい。締切：2 月 7 日（土）。先着 25 名になり次第締め切ります。

申し込み先：勝田：

*原則雨天決行ですが、悪天候で通行不能になり中止の場合は当日の朝迄に連絡致します。

担当：小田久美子

・勝田均

<3 月の予定>

3 月例会「壺坂・高取城址を訪ねて」

—日本一の山城と石仏群をめぐり、午後は雛の里壺坂の街並みをのんびり訪ねます—

日時：21 年 3 月 25 日（水）9 時 30 分

集合：近鉄吉野線壺坂駅

担当：豊島

・小嶺

*詳細は会報第 86 号（3 月号）でお知らせします。

「いこま棚田クラブ」の活動日 ご案内

21/2月活動日・・・1日(日)、9日(月)、15日(日)、23(月)。

集合場所と時間：近鉄生駒駅下車、南口側ケーブル駅西隣セブンイレブン前 AM9時集合
現地まで車で移動15分。弁当・飲み物持参下さい。

* 2月の作業は、草刈、石垣だし、花畑、畑の手入れ、竹炭焼き、里山林整備です。

平成21年1月度幹事会議事録

日時：1月15日(木) 場所：奈良市中部公民館 司会：古川 記録：豊島

会長年頭ごあいさつ

〔報告事項〕

- (1) 会員数 111名(1/15現在)
- (2) 12月度例会「山背古道と忘年会」12/15(木)例会24名、忘年会30名参加、お天気に恵まれ名ガイド付きで楽しい古道散策となった。
- (3) 奈良・忍辱山森林整備作業は雨天のため中止した。
- (4) ならやま里山林プロジェクト 定例活動に109名参加。リース作り、いも煮会、里いも掘り、里山の整備など。
- (5) 生駒市環境フェスティバル 1/18(日)パネル展示

〔確認事項〕

(1) 今後のスケジュール

例会 1/31(土)新春講演会、午後から奈良公園の巨樹・巨木観察会。

2/25(水)湖北探鳥会 3/25(水)壺坂・高取城址を巡る

忍辱山整備 1/16 予1/27、2/17 予2/24、3/17 予3/24

ならやまP 1/12(山・野鳥)、1/24(実)、2/6(山)、2/9(野鳥)、2/12(実)、2/28(実)、
3/7(シイタケ)、3/9(野鳥) 3/20、3/31(山)

* 3/7のシイタケの菌打ちは奈良市広報紙で子供(30名)募集

(2)「進路ガイダンス」2/1(日)10:55～ 大阪福島区民センターホール

〔討議事項〕

(1) ならやま里山林プロジェクトについて

(2) 会報の発送事務について

奈良県森林組合連合会主催の刈り払い機・チェーンソー講習会について

編集担当：勝田 均

TEL&FAX：

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生